

私は社会人となって 40 年弱、現在の会社に入社して 25 年が経ちましたが、早いもので来年には定年を迎えます。

以前所属していた調査設計系の会社では様々な業務に携わりました。中でも思い出深いのは、地熱発電に適した水源を探查するというもので、磁場と電場を測定する機器を地中に埋めて、地球に降り注ぐ電磁波を反射する微弱な波形を解析することによって地下深くの様子を把握するという、“地球物理学”なミッションです。私は位置測定と設置を行いました、最初の頃はフランスの測定機器を使用したため、そのオペレーターとしてのフランス人とペアを組み、朝から夕方まで測定車両の中で二人っきり、お互いカタコトの英語で身振り手振りを駆使し、何とか頑張って会話をしたものです。おそらく二度とないであろう貴重な経験でした。

さて、全くの部門外の話をしてしまいましたが、現在の会社では土地区画整理事業に多く従事し、道内の主要な駅周辺や既成市街地において、事業の立上げから終焉まで数々の事業に関わりました。既に多くの事業は完了し、整備した基盤の上には上物が建ち、様々な土地利用が展開されています。この事業の説明はムズかしくひと言で表しにくいですが、できあがったマチを言うと“ああ知ってる、あそこやったんだー”と仕事を理解してもらえます。そういう時はチョッピリ誇らしい気になります。

縁あって 5 年前から大学で土地区画整理事業についてナマの事例を題材とした講義を受け持っています。非常勤でわずか 1 コマの講義ではありますが、その時に学んだ“土地区画整理事業”を頭の片隅においてまちづくりに携わってる、そんな社会人がひとりでも活躍してくれると、幸いに思います。

縁あって 5 年前から大学で土地区画整理事業についてナマの事例を題材とした講義を受け持っています。非常勤でわずか 1 コマの講義ではありますが、その時に学んだ“土地区画整理事業”を頭の片隅においてまちづくりに携わってる、そんな社会人がひとりでも活躍してくれると、幸いに思います。

中山 祐二(なかやま ゆうじ)

●建設部門(都市及び地方計画)

勤務先

株式会社シン技術コンサル



→次号は、押野和也さん(建設部門)

非寛容社会の技術士の役割

『買物しようと街まで出かけたが、財布を忘れて愉快的サザエさん』昭和の名作、サザエさんのオープニングの一節である。これのどこに愉快的要素があるのかとツッコミたくなるが、作詞した林春生氏は昭和 12 年の生まれで戦中戦後を経験した方である。多少の失敗や手戻りなど愉快地に笑い飛ばす、ゆとり遅しさがあつた時代である。むしろ小さなことなど気にしては、生きていけない時代であつただろう。

一方、令和を迎えた現代はどうだろうか。政府のコロナ対応やら芸能人のゴシップに対し、TV コメントーターが毎日延々と批判を繰り広げる社会である。そして 1 度間違つた者は永遠に責められ続けられる、そんな寛容さもゆとりもない時代に生きている。我々技術者はそんな非寛容社会の中で、「確実な安心安全を」、「工期厳守」、「コストは最小限に」など多数の命題に縛られながら、常に正しい解答を導く、少しも失敗は許されないというストレスの中で活動しているのである。

しかし、そんな完璧な人間などいるはずがないだろう。時には失敗が良い経験となって人間を育てていく。我々だって失敗ばかりして、周りの人間に助けてもらって、時には偶然という運にも助けてもらって何とかここまでやってきた。いい加減ではない真摯な失敗、それを拒む時代になってはいけない。

サザエさんの歌詞は『みんなが笑ってる、小犬も笑ってる〜』と続く。昭和は遠く過ぎ去ってしまったが、万人が笑ってられる結果に導いて行く、そんな役割も技術士の仕事の一つではないだろうか。

井形 淳(いがた すなお)

●建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋、建設環境)、上下水道部門(下水道)

勤務先

株式会社エーティック



→次号は、西村 右敏さん(建設部門)